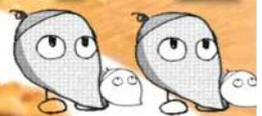


とんがらし通信

たはやく
べたい!

No.271



～主な内容～

- 施設長コラム
- 夏祭り
- 活動紹介（虹色シンフォニー、亀喜寿司、視線入力体験、アマビ工展）
- 研修報告
- Close-up! • 職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室
発行責任者 山口 収
発行日 2024年9月25日
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752
E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



シスターからの宿題 の巻

今年の夏も暑かった～！福岡県の太宰府市では猛暑日数が40日を超えたとか…。その他にも名古屋では25日以上、横浜でも10日以上と、全国的に暑～い夏だったのですね。仙台でも連日危険な暑さが続きましたが、利用者さんも職員も水遊びやかき氷づくりでそんな夏を楽しく過ごしたのです。…そんな暑い盛りの先日、仲良くさせていただいているご近所の修道院にお住いのシスターが『山口さん、これ読んで！』と新聞記事を持ってきてくれました。手に取ってみると、朝日新聞の『オピニオン&フォーラム』というコーナーの投稿記事でした。軽度の知的しょうがいのある投稿者が、先日明るみになった『日本臓器移植ネットワークによる障害者差別とともとれる行為』について自身の思いを述べているもので、いろいろ考えさせられました。

『臓器移植のあっせん機関である日本臓器移植ネットワークが、療育手帳を持つ知的しょうがいの者の臓器提供の意思表示を一律に無効とする運用をしていたことが分かった』と報道されたのは5月29日でした。これを受けて厚生労働省は、有効な意思表示が困難な障害があるかどうかは主治医らが確認することであり、療育手帳を持つことのみを理由に一律に判断しないよう徹底を求める旨の通知を日本臓器移植ネットワークおよび眼球あっせん機関にあてて出しました。

そもそも平成9年に制定された『臓器移植法』では、「死亡したものが生存中に有していた自己の臓器の移植術に使用されるための提供に関する意思是、尊重されなければならない」と規定されています。しかし臓器提供の意思是『臓器提供および臓器移植に対する正しい知識と理解』が前提となるとの議論に基づいて、同年に厚生労働省により通知された『臓器移植法の運用に関するガイドライン』では「知的障害者等の臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有する者については、その意思表示等の取扱いについて、今後さらに検討すべきものであることから、主治医等が家族等に対して病状や治療方針の説明を行う中で、患者が知的障害者等の臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有する者であることが判明した場合においては、年齢に関わらず、当面、その者からの臓器摘出は見合わせる」としています。

と、ここまで法律やガイドラインの文言をあえてそのまま引用したので分かりづらいのですが、簡単に言うと『生存中に明確に臓器提供の意思を示していれば、それは尊重される。ただし、知的しょうがい等により提供の意思を明確に示すことが困難であると主治医が判断した場合には、臓器摘出は行わない』ということです。今回の報道を受けて、厚生労働省臓器移植委員会の資料や臓器移植法運用ガイドライン・第三者委員会による調査報告書などを読んできましたが、日本臓器移植ネットワーク側は再三にわたり『療育手帳所持者の臓器移植の可否』について、厚生労働省に問い合わせていたことが分かりました。厚生労働省からはその都度『知的障害者についてすべからず臓器摘出を見合わせることを求めているのではなく、知的障害者は臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有する可能性がある者の例示として示していること』『臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有する者であるかどうかはご家族や主治医から確認する必要があること』について回答していました。それにもかかわらず、臓器移植ネットワークの前理事長は、『現時点では15歳以上の療育手帳所持者は知的障害者に該当するため、臓器摘出は一律に見合わせる』という内容を都道府県の臓器移植コーディネーターに向けて周知していたのです。思うにこの考え方はかなり以前から周知されていたふしがあり、全国の臓器移植コーディネーターの中には『療育手帳所持者の臓器摘出の不可はコーディネーター間の共通認識だった』と取材に回答する方もおられるのです。2016年～2020年の5年間で、判断能力が確認できず臓器提供が見合わされた事例は全国で22件あったということです。

『臓器移植』という人類の倫理にも触れるデリケートな内容に軽々にコメントすることはできませんが、日々を共にするしょうがいのある方の思いを大切にしたいと毎日奮闘している我々しょうがい福祉の職員たちにエールを贈りたいと思う夏の夜なのでした。。（管理者 山口 収）

仙台つどいの家 夏まつり

8月3日に仙台つどいの家「夏まつり」を開催しました。今年もたくさんの地域の方々にお越しいただき大盛況のうちに終えることが出来ました。利用者さんは浴衣を着てウキウキな様子が伝わってきます♪お父さん方には、暑い中焼き鳥や焼きそばなど、汗をかきながら焼いてもらいました。縁日コーナーでは福祉大のボランティアさんの協力のもと、子供たちがくじ引きやヨーヨー釣りなどを楽しんでいました。



ステージでは、地元の幸町中学校の吹奏楽部の皆さんがステキな演奏でオープニングを飾ってくれました。リトルスターバトンの皆さんは、笑点の音楽等いろいろなジャンルの曲に合わせ華麗なパフォーマンスを披露してくれました。

次のジャズダンスでは、めいぷるグループの溝口安奈さんが登場です。メイクやネイルをして、衣装に着替えた安奈さんは少し緊張気味の様子でした。しかし、ダンスが始まると普段の安奈さんからは想像できないくらい躍動感に溢れていてお客さんの目が釘付けになっていました。週1回の練習に欠かさず参加してきた安奈さん。練習の成果を発揮し最後はとびっきりの笑顔になっていましたね！！



そして、今年も東北高校のチアリーダー部の皆さんにも参加していただきました。曲に合わせた息の合ったダンスに掛け声と、見ている人に元気と笑顔で楽しませてくれました♪

続いて、「光」の皆さんによる仙台すずめ踊りです！！仙台と言え



ばすずめ踊り、お囃子の音にけやきグループの智子さんは体を左右に揺らしてニコニコで踊っています。みんなも扇子を借りて、一緒に踊りの輪に混ざりました★

外も暗くなってきた時間、幸南復興太鼓の皆さんによるパフォーマンス！！太鼓の力強い迫力の演奏がとっても印象的でした。和太鼓の体験コーナーでは、大きな音にビックリな賢治さんや翠さん。みんな思い思いにお祭りを楽しんでいました。そして最後は、宮城学院女子大学のよさこい部による演舞です。会場を巻き込むパワーに利用者さんもお客様もみんなが踊りだし、会場全体を盛り上げていただきました(^^♪

今年の夏まつりは、これだけでは終わりません！！豪華景品の当たる大抽選会が待ちっていました。近隣のお店や企業の方々からの協賛品も沢山あり、最後まで皆さんと楽しむことができました。

来年も皆さんに会えるのを楽しみにしてますね～ (記：菊地)

来年も皆さんに会えるのを楽しみにしてますね～ (記：菊地)

来年も皆さんに会えるのを楽しみにしてますね～ (記：菊地)



コンサートへ行ってきました～

8月15日の木曜日、宮城野区文化センター・パトナホールで行われた「虹色のシンフォニー」のコンサートへ行ってきました。メンバーは岩佐美奈さん、奥山陽介さん、東成児さんの3人です。幼稚園年長から大学院生までのヴァイオリニスト・ピアニストが出演するこのコンサート。

会場に到着すると、ドレスやスーツに身を包んだ方々が準備をしており緊張感が高まっています。開場し始まりのチャイムが鳴ると「いよいよはじまるんだなあ」と3人の気持ちも高まっています。演奏が始まるとヴァイオリンを弾く真似をして音楽を楽しむ美奈さん、「うーうー」と声を出しながら音楽を楽しんでいる陽介さん、リラックスして身体を揺らしてからだ全体で音楽を感じている成児さん、それぞれの楽しみ方でコンサートのステキな時間を過ごしました。

(記：早坂)



品田賢治～塩釜編 お寿司を食べに行こう!



7月10日に塩釜市にある老舗のお寿司屋さん「亀喜寿司」に行ってきました。支援学校時代からの旧友である品田貴文さんと櫻井賢治さん、以前から『品田賢治』と称しているいろいろなところに二人でお出かけしてきました。昨年秋には『品田賢治～東京編～スカイツリーに登ろう!』で日帰り弾丸旅行に行ってきましたが、今回はその『塩釜編』です。

職員2名に昔から2人を知っている山口さんを加えての計5名で行ってきました。頼んだのは2人とも親方おまかせコースにぎり。なんと大きいお皿が3枚も出てきました。まず初めにお寿司が8貫と卵が乗ったお皿と味噌汁が運ばれてきました。それを食べると5貫ほど乗った次の皿が運ばれて来ます。それを食べ終わると3皿目、食後のデザートでした。どのネタも1品1品がとても手が込んでいて品田さんも賢治さんもパクパクと食べて味わっていました。ウニ、イクラ、大トロの他にもフワフワでジューシーなアナゴ、臭みがなく脂が乗っているアジ、サバなどの青魚もとても美味しかったです。

食後には星野珈琲に行き次回の作戦会議を行いました。品田さんが「次はどこに行こうか」と言って、早くも決まりそうな勢いでした。付き合いの長いお二人の関係性がとても素敵だなと感じた塩釜編でした。(記：斎藤)



視線入力に挑戦！！

7月にもみじグループの利用者3名が、視線入力によるパソコンの操作に挑戦しました。視線入力とはその名の通り、マウスの代わりに目の視線でパソコンを操作することです。今回は宮城教育大学の寺本淳志先生に来ていただき、道具もお借りしてチャレンジしました。



皆さん初めての経験だったので、最初は不思議そうな様子でしたが、画面上で自分が見たところが変化していく様子を、集中してじっくり見つめていました。

達紀さんは、画面上のブロックを壊していくと大好きなトーマスが現れる、というゲームなどに挑戦しました。うまく視線を動かし、見事トーマスが現れると手を叩いて笑顔になっていました。夏海さんは、好きなアーティストを選択すると、その曲が流れるというものに挑戦しました。好きな「AKB48」と「なにわ男子」から、何度見てもなにわ男子を選択し、映像が流れると嬉しそうに画面を見つめていました。賢治さんは射的のゲームで、3段に並んでいたおもちゃをあっという間に全部倒してしまいました！



普段から特に周りをよく見ているなど感じていた3名でしたが、実際にパソコン上に形が残ることで、改めて視線がよく動いていること、見る力があることを実感することができました。経験してみないと分からないことがたくさんあるので、もみじグループとしてもこれからも様々なことに挑戦していきたいと思います！（記：淡路）

アマビエ展2024



7月17日～19日の3日間、イオン幸町店2階連絡通路にて、くるみグループの菊地愛子さんの個展「アマビエ展」を開催しました。今回は、写真やポエムに加え、籠やミニチュアの帽子等を展示しました。

愛子さんにインタビュー

職員：作品づくりで頑張ったこと、苦労したことは何ですか？

愛子さん：どんなアマビエちゃんを作るかアレンジの知恵を絞り、お姫様タイプのアマビエちゃんを作りました。ミニチュアの籠は最初いびつな形になってしまいましたが、ネットで調べて工夫しました。

職員：作品のアイデアはどこから湧いてくるのですか？

愛子さん：心の中でこういうのやりたいな～っていうのが湧いてきます。そこから色々調べて作ります。

職員：愛子さんの大好きなアマビエちゃんへの思いを教えてください。

愛子さん：アマビエちゃんはコロナ禍で出会ったお友達です。私にとっての頼もしい正義のヒーローです。

職員：最後に、改めて今回のアマビエ展の感想と、次回開催予定のバンバル展に向けて一言お願いします。

愛子さん：作品を見てもらえて熱いパワーが湧きました。夢はメディアテークでアマビエ展を開くことです。バンバル展では何を作ろうかなと色々考え中です。皆さん見に来てください！



作品を通してたくさんの人と交流することを目標としている愛子さんの作品展に今後もご注目ください！（記：菅原）

非常勤職員研修



7月1日に、非常勤職員研修へ参加させて頂きました。

今回のテーマは、「家族と本人の想いを伺い、事業所の役割を考え、今後の支援に活かす」でした。

午前は、3名の利用者さんとお母様の講演でした。皆さんのあゆみを聞かせて頂き、これまでの様々な経験、沢山のひととの出会い、嬉しかったことや大変だったこと、職員への想いなどを学ばせてもらいました。利用者さんやご家族が、何を望んでおられるのか、普段の会話や非言語でのコミュニケーションによって信頼関係を築くことの大切さを感じました。活動の面では、「できない」ではなく「どうすればできるか」を考え、利用者さんが笑顔になれるような活動・支援をしていきたいと思いました。

午後はグループワークと上映会でした。グループワークでは他の事業所の職員の方とお話の中で、自分の事業所での悩みや改善方法などを聞くことができ良かったです。ドキュメンタリー映画「ちづる」上映会では、利用者さん本人の葛藤や家族の葛藤、将来についてなど、とても考えさせられる映画でした。

今回の非常勤研修で講演して下さいました利用者さんとお母様、貴重なお話を聞かせて頂き、本当にありがとうございました。
(記：佐藤唯)

訪問の家 朋 交流研修

7月、神奈川にある訪問の家へ研修に行ってきました。つどいの家と訪問の家は同じ重いしょうがいのある方を支える施設として古くから交流があり、職員の研修も頻繁に行っています。

朋では喀痰吸引や胃ろうなど医療的なケアを必要とする方が日々30名ほど通所されています。看護師も常駐しているのですが、介護職員でも喀痰吸引等が出来るようになる「3号研修」を修了したスタッフも多く在籍していて、看護師がいない場面でも利用者さんと外出したり胃ろうや喀痰吸引をしています。

特に印象に残ったことが二つあり、一つ目は利用者さんの意思表出を大切にしていたところです。重いしょうがいを持っている方は意思表出に時間がかかってしまったり小さなサインで見落としたり疎かにされてしまうことがあります。しかし訪問の家の職員は時間を掛けてでも薬を「飲む・飲まない・考え中」などを確認していました。訪問の家が運営するGHなどの関連施設も見学させて頂きましたが全職員が当たり前のようにできていました。

二つ目は地域に向けた活動を大切にしていたことです。月に一回行う「朋プロジェクト」では地元の音楽隊がコンサートを開き、地域の方が気軽に朋へ入ったりしょうがいのある方を知るきっかけとなっていました。缶回収で毎日近隣のお宅を回っていて、朋が地域にとって欠かせないピースとなっていました。

訪問の家で学んできた「意思表出をじっくり待つ」「地域とのつながりを大切にする」ということはつどいの家の理念にも通じる場所があります。この経験を活かしよりつどいの家が地域で愛されるようにしていきたいです。
(記：松原)



Close-up!

すぎやま なお 杉山 奈央さん



今回はさんしょグループの杉山奈央さんを紹介します。

奈央さんは気管切開をしておりモニターによる継続的な観察が必要ですが、食べることが大好き☆昼食の時間になり給食の良いにおいがしてくると、大きな目をぱちぱちさせたり口をもぐもぐさせたりして、「食べたいよ〜！」の猛アピールが始まります。

あま〜いスイーツも好きですが、生姜焼きのたれや、カレー、照り焼きのたれなどのご飯のお供も大好きです！そんな奈央さん、日中はお薬の影響でどうしても眠気が強く、ウトウトしていることが多いですが、話しかけると目を動かしてお返事してくれることもあります。また、素敵な音楽も大好きで、Artway Duo さんのピアノとヴァイオリンの生演奏を聴いたときにはうっとりとした表情をしながら聞き入っていました。

最近ではおしゃれ活動でネイルも楽しんでます！季節ごとにカラフルで可愛い爪を輝かせていますので、皆さんぜひ奈央さんに話しかけて褒めてあげてくださいね。褒められると女性はもっとキレイになるのです…☆
(記：古川)

職員コラム

今回は！くるみグループ

松崎敏弥さん

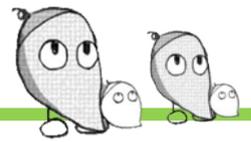
今年の4月から仙台つどいの家に異動しました、松崎敏弥です。つどいの家に勤め始めて3年目になります。自分は専門学生の2年間ギターを作る学校に通っていました。まささらな木材から自分でギター、ベースの製図を作って機械で削ったり、パットを使って形を整えたり配線をしたりと色々な工程を進めながら日々ギターやベース制作に没頭していました。中でも塗装にいちばんハマリ、塗りたい色を作って塗装して、塗装が剥がれないようにまた別な塗料を吹いてました。ペイントも好きだったので実家にあったギターを持ってきて塗装を全部剥がしてまた一からと面倒くさいような作業を色々していました。失敗してはまた塗りなおしで剥がしてまた塗装して、日常茶飯事でした。

ギターを作るのは機械がないと難しいのでできませんが今でも配線をしたりすることは好きなので時々教科書を見ながら配線をしたり、調整したりしています。

休日の楽しみは楽器屋へ行ってギターを試奏したり、ギターのパーツを見るのが好きですが、楽器屋に行き過ぎて嫁に怒られないようにだけ気を付けてます。

時代が進んでいく世の中ですがこれからどのようなギターが出るのか、ワクワクドキドキとまたギターを作りたいな〜と思う松崎でした。





スケジュール schedule

令和6年 10月



- 1日 (火) 法人防災訓練
- 10日 (木) 音楽療法①・生け花①
- 12日 (土) つどいマルシェ
- 16日 (水) めいぷる小学生クッキング
- 17日 (木) 音楽療法②
- 21日 (月) 施設懇談会
職員会議
- 24日 (木) 生け花②
- 31日 (水) ケース会議
13:30 降所



令和6年 11月



- 2日 (土) 休日開館日
- 7日 (木) 音楽療法①・生け花①
- 21日 (木) 後援会上映会・職員会議
音楽療法②・生け花②
- 22日 (金) 4事業所合同施設懇談会
- 26日 (火) ケース会議 13:30 降所
- 29日 (金) 実践報告会すてーじ



ご協力ありがとうございます

ボランティアとして協力して頂いた皆様

(7月13日～9月14日まで)

吉田さん 田谷さん、松本さん、平さん、山浦さん、夏祭りボランティア13名

見学・来訪者など

音楽療法向井田先生、鶴ヶ谷支援学校：横田、東北高校：角田先生、生徒、夏のボランティア体験：高橋、窪田、宮城教育大学：寺本先生、菅井先生、阿部、坂本、東北福祉大学：工藤先生、松尾兼好医師、ゆあらいふ：福地、あいの実、泉ヘルパー、j & j、はびねす、夏祭り出演者：多数、インターンシップ：菅野、福祉大：工藤、泉妻、福田、松島、松原、荒、地域包括ケア実習：軽部、伊東、今野、麻里、鈴木、かまどや、吉田屋、ヤクルト、今庄青果、アグリ仙台、マルイ、マルキ水産、サトー商会、ダスキン、ほまれフーズ、ホシザキ東北、日本テクノ、東北食材、タカラ米穀、まんさく工房、ハート総合企画、法人職員：理事長、八木山職員、利用者、医ケア検討会議(7名)すてーじ担当者、佐々木健、大累、靖志、小野、篠崎 (ほか多数(以上、ご芳名順不同))

缶回収

7・8・9月分の納品額

合計 9900円 でした。

ご協力ありがとうございました。

編集後記

今年の夏も暑かったですね。6月7月は暑さに身体も慣れていなかったのでもしんどかったのですが、何となく身体も暑さに慣れていくのか少しずつ楽にはなってきました、しかし、蓄積された夏の疲れがこれからどどっと出てきそうでちょっと怖いです。夏バテにならないように今年は腸活で、ぬか漬けを始めました。ばあちゃんが漬けた『すっかいきゅうり』を再現できるようぬか床を育てていくのが楽しみです。(記：佐藤智)



にこりほっと

この夏の暑い中でも、つどいのみんなは色々なところに出かけて、たくさん楽しい活動をしてきました。楽しかった活動の報告や、にこりほっとは、帰りの打合せで活発に報告され、しあわせな気分をみんなで共有しています。にこりほっとに刺激され、また新たに地域で素敵なにこりほっとが生まれていきます。